

〔令義解職一員〕典藥寮略○中 乳戸。

〔令集解職五員〕古記云、釋云、別記云、藥戸七十五戸、中乳戸五十戸、經年一番役十丁、右二色人等爲

品部、免調雜徭。

〔續日本紀元六明〕和銅六年五月丁亥、始令山背國點乳牛戸五十戸、

〔春記〕長曆三年十月十四日辛未、今日始服生乳一盃、自今可持來之由、仰乳牛司正友已了、予已爲別當、仍不可霍執也、自今日々可持來也、十九日丙子、徵芻之使雜色光賴令申云、郡司等申云、件芻例負名之者芻等、先日乳牛院徵取已了、所奉切芻、是已無負名、適所在是高家莊中也、爲之如何、召預正友、可問事由之狀、仰雅兼了、

牛乳

〔倭名類聚抄十一馬〕乳牛 唐廐牧令云、乳牛犢十頭、給丁一人牧飼、乳牛者牝牛有子之、和名知字之、

〔易林本節用集女氣形〕乳牛

〔延喜式三十六主殿〕乳牛院油一升十二月晦夜料

〔新撰姓氏錄左京諸蕃上〕和藥使主

出自吳國主照淵孫智聽也、中男善那使主、孝德天皇御世、依獻牛乳、賜姓和藥使主、

〔春雨樓叢書二〕野牛乳。

長崎の吉雄氏云く、野牛の雌を多く養ひ置き、其乳を取り、毎日茶碗の茶に少しづ、さし飲む、茶も甘くして甚だ美し、三十日も飲ば、淫事を忘れて、身體甚だ壯なり、是即長壽を得るの法なり、阿蘭陀の人、壽をたもつの薬を、皆牛乳の類、淫道を忘る事を先とす、是れ尤なる事なり、

〔享祿本類聚三代格十〕太政官符

應責違闕例貢蘇事

右案太政官去承和十二年八月七日符、僞太政官去弘仁六年十一月十三日下、民部省符、僞右大臣

蘇